Vol.43　発行: R1年.8月

地域の通信 わ

区政推進課　地域力推進担当　411-7026

Case 16

カフェ３１１０/（サイトウブン）

主催：カフェ３１１０/運営委員会

斎藤分町北部自治会館で開催している「カフェ３１１０/」では、毎月第３金曜日の 13 時から 15 時までコーヒーの香りと明るい会話が絶えない。「今日は暑いわね～」「髪型変えたの？」と日々の何気ない話をする常連さんや表に出ているのぼりを見て初めて利用する人が、淹れたてコーヒーを味わいながら会話を楽しむ。広さ１２帖ほどの会館にはひっきりなしに人が訪れ、地域の交流の場として活用されている。

自治会館を地域交流の場に

カフェを知らせるのぼり

ウエルカムボード

あじさいのオーナメント

寄付されたコーヒーカップ

カフェの運営者の一人である山田会長（斉藤分町北部自治会）は「5 年前に会長となり、気になることの一つに自治会館の空き時間の活用があり、その中で住民の困り事や悩み事を聞く場ができないかと思っていました」と言う。そんな中、自治会役員である仁井田さんと佐々木さんが、六角橋地域ケアプラザの「コーヒーボランティア養成講座」を受講する機会を得た。これをきっかけに、自治会役員や民生委員らをメンバーに誘い、会長の会館活用の思いと共に、平成３０年５月に「カフェ 3110/」はオープンした。

副会長はカフェマスター！

仁井田さんのコーヒーはおいしい！と評判

カフェで中心的な役割を担っているのは副会長の仁井田さん。一杯ずつハンドドリップしたコーヒーは利用者に好評だ。仁井田さんのようなカフェマスターの活躍が功を奏し、男性でも気軽に利用しやすい雰囲気が、ここの特徴となっている。

「いつも来てくれる人は座る席もほぼ同じ。その席に姿が見えないと連絡するようにしています」と仁井田さんは細かい気づかいを忘れない。定期的に住民の顔が見られるカフェは、地域のゆるやかな見守りの場にもなってきている。

できることで関わる地域カフェ

笑顔で対応する佐々木さん（右から３人目）

神奈川大学の学生たち

コーヒーを淹れるおしゃれな器はすべて地域の方からの寄付。好きなカップでコーヒーを味わいながらの会話は弾む。壁に飾ってある季節感のあるオーナメントやウエルカムボードは、カフェのスタッフの手作り。月ごとに変わる飾りが場を和ませている。

運営者の一人であり自治会の会計を担当している佐々木さんは「第３期神奈川区地域づくり大学校」の卒業生でもある。卒業制作である地域で実現したい「夢プラン」に、地域カフェづくりを描いた。大学校での学びを活かし、ここでは高齢者の対応やコーヒーのサービスを手伝っている。「カフェでの顔が見える関係が、いずれは防災の取組につながればと思っています」とカフェへの展望を語る。

また、カフェを訪れた日は、神奈川大学の学生３人が「ボランティア学習論」のフィールドワークとしてカフェの活動に参加していた。「普段触れ合うことのない高齢者の方との会話に戸惑っています」とぎこちないながらも、「“また来て”と言われて嬉しかったです」と、新たな出会いと学びが広がる地域カフェ体験になったようだ。

「ここに行けばあの人に会える」場の必要性

男性の利用者が多い「カフェ 3110/」

【カフェ 3110/】
開催日時：第３金曜日　13 時～15 時
会　場：　斎藤分町北部自治会館
利用料：コーヒー　100 円
　　ハンドドリップコーヒー　150 円

「カフェ 3110/」は、地域カフェとしてスタートして一年。「ここに行けばあの人に会える」と思える地域のカフェとして、なくてはならない居場所になりつつある。

地域カフェのような住民が交流できる場が身近にあることは、引きこもりがちな高齢者が地域社会に出るきっかけになり、ひいては健康寿命の延伸や地域の活力にもつながっていくだろう。また、気楽なおしゃべりの中から、生活の困り事や心配ごとに気づき、早めに対応できる機会が得られるかもしれない。より良い暮らしができる地域づくりや地域力を維持するためにも、地域カフェへの期待は膨らむ。